家庭数

令和３年１月６日

# 芝山小だより

１月号
清瀬市立芝山小学校
校長　　清水　一臣
http://www.kiyose.ed.jp/

## コロナ禍にあって変わるものと変わらないもの
### ―危機管理の徹底と学校のあるべき姿を見据えて―

校長　清水　一臣

新年あけましておめでとうございます。例年であれば、期待や希望に満ちた新年の幕開けですが、今年は様相が一変しました。新型コロナウイルスの猛威は収束するどころか、とどまるところを知らず、国が再度の緊急事態宣言を発令する事態にまで至っています。そのような中にあって、学校教育はいかにあるべきか、コロナ禍にあって変わるものと変わらないものとは何か、年頭に当たって４つの視点から危機管理と学校のあるべき姿を探ってみたいと思います。

まず第一は、命と健康の大切さについてです。

学校は子供の命をお預かりしているところです。したがってその第一の使命は、子供の安全と健康を守ることにあります。この度の新型コロナウイルスの拡大は、学校に対してそのことの問い直しを迫りました。例えば手洗いの徹底です。平常時であれば衛生面から当たり前のように指導していた事柄であり、それだけに見過ごされがちな日常の活動です。しかし、コロナウイルスの影響によってそのことを疎かにすることが感染リスクにつながり、ひいては命の危険にまで及ぶことが改めて認識されるようになったのです。子供たちには外から帰ってからはもちろんのこと、授業の前後にも１０分間の休憩時間を利用して手洗いをさせるようにしてきました。

第二は、危機に際しての情報提供の重要さについてです。

昨年１１月に本校は全校一斉の臨時休業となりました。のべ１１日間もの間、子供たちは学校から離れて生活することになりました。学校としてどのように情報提供すればよいか、どのようにして子供たちや家庭の不安を払拭するか、迅速な判断と対応が求められる事態でした。一斉メール配信やホームページを通しての情報提供はもちろん、学級担任による一軒ごとの電話連絡、ユーチューブによる校長のメッセージ配信、ズームアプリを活用しての学級担任と子供たちとの双方向通信など、準備に多少の時間はかかりましたが、できる限りのことを行いました。このことを通して私たちは、改めて危機に際しての迅速な情報提供の必要性と危機に備えての普段からの準備の重要さを痛感しました。今後コロナ禍のような疫病以外にも、どのような形で災害が起こるか分かりません。その時に必要なのは迅速・的確な情報提供です。今後も、ご家庭のご協力をいただきながら普段から様々な形での情報提供に努めてまいります。

第三は、毎日の一時間一時間の授業の大切さです。

昨年は３月から市内全域での臨時休業が始まり、学校は６月に再開されました。また、上記の臨時休業もありました。この間の授業時間の欠落を補うために、本校では夏休みを当初の予定よりも１５日間短縮するとともに、土曜日の授業を増やしました。学習指導要領で示された標準授業時数は確保できているとはいえ、より一層の学力向上を図るために設定していた時数を網羅することは厳しくなっています。それだけに、一時間一時間の授業の質を充実させることが学校に課せられた重要な課題です。そのために教員は一時間ごとの計画をしっかり立て、子供たちの学力を高めるために努力しています。

第四は、子供たちの社会性の育成と集団生活としての学校の在り方についてです。

新型コロナウイルスは、学校から子供たちの社会性の育成の機会と集団生活の機能を奪いました。ソーシャルディスタンスや「三密」という言葉にあるように、かかわりや触れ合いを通して育まれるべき学校の集団生活の機能が奪われてしまいました。高学年の宿泊行事や各学年の校外学習は、互いの思いやりや集団生活のルール、公共の場での規範意識を養う貴重な機会です。また、クラブ活動や委員会活動、異学年集団による縦割り活動も制限されています。学校は学習の場であるとともに社会性や人間性を養う場でもあります。感染リスクを避けながら可能な範囲の中で活動を継続していきたいと思います。

芝山小学校ではどのような状況下にあっても教育活動を止めることなく、教職員一丸となって子供たちのために全力を尽くしてまいります。今年もよろしくお願いいたします。